



平成28年7月15日
高知県普及活動外部評価

資料2-2

(平成25～27年度)

「日本一の二ラ産地の強化」

中央東農業振興センター
農業改良普及課 小松由美

JA土佐香美園芸部ニラ部会(対象)の概要(H24)と 課題の背景

対象の概要

生産者数 : 234戸
栽培面積 : 97.1ha
出荷量 : 5,826 t (H24)
販売額 : 28億7,900万円

日本一!

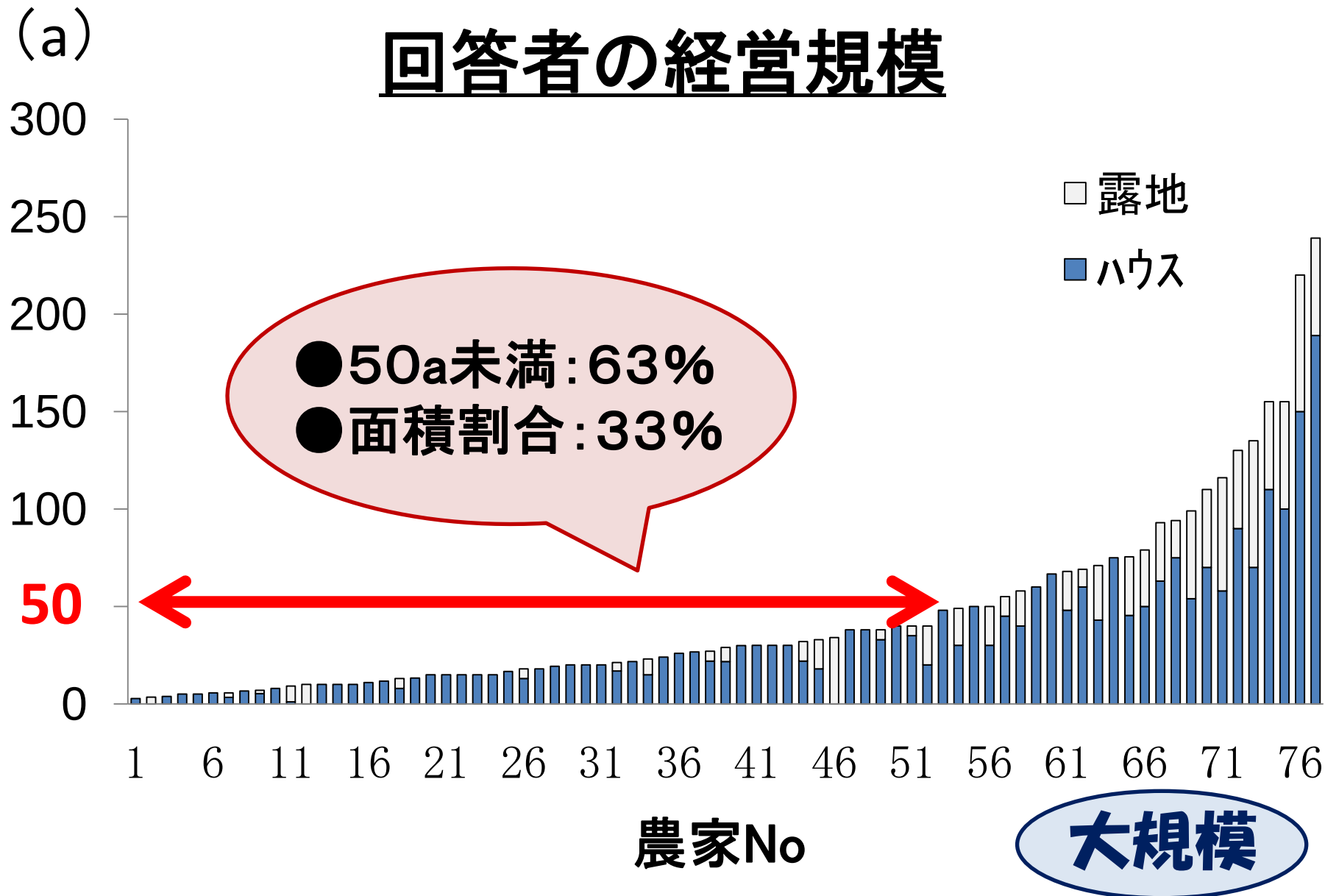
課題の背景

- 農家数の減少
- 出荷量の伸び悩み
- 異物混入 等による市場クレーム
- そぐり手の高齢化による労力不足

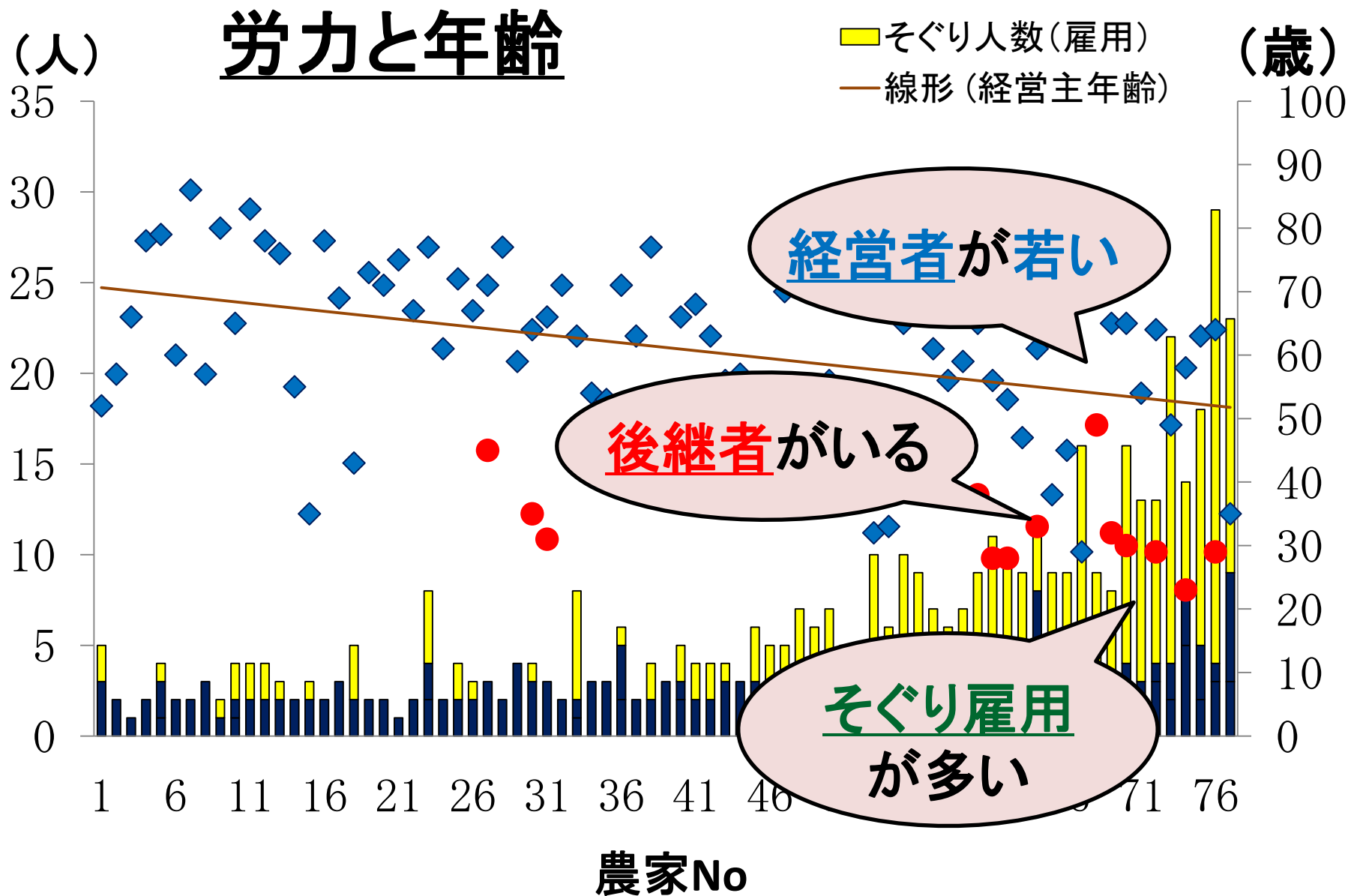


産地の維持拡大・農家の経営安定を阻害

対象の概要(H24雇用等に関する意向調査結果)



対象の概要(H24雇用等に関する意向調査結果)



普及計画の「ねらい」と「普及事項」

ねらい

- 日本一の二ラ産地を維持・拡大
- 農家の経営安定を図る

普及事項

1. 産地ビジョンの構築と推進
2. 出荷量の増加と周年安定生産への支援
3. 省力・低コスト及び品質向上対策
4. 新規就農者の確保・育成
5. 担い手の経営安定への支援

「普及事項」と「取組目標」

NO	普及課題事項	評価項目	実施前	目 標
1	産地ビジョン構築と推進	産地目標	単年度	中長期ビジョン策定
2	出荷量の増加と周年安定生産への支援	12～1月出荷量前年比増農家割合	—	16戸/24戸
3	省力・低コスト及び品質向上対策	8～9月秀品率前年比増農家割合	—	16戸/24戸
4	新規就農者の確保・育成	バックアップ体制 指導農業士数 モデル数 グリーンカレッジ 実施・参加率	体制がない 5名 1名 未実施 —	体制の決定と実施・検証 6名 1事例 実施 60%
5	担い手の経営安定への支援	経営目標達成農家数割合	7戸/25戸 (28%)	10戸/24戸 (41%)

課題解決に向けたチーム活動と連携体制



ニラチーム会

- 農業振興センター
- J A 土佐香美



JA土佐香美 ニラ生産部会

- 三役会
- 役員会
(支部代表者会)
- 全体会(部会員)



農業革新支援専門員 農業技術センター 等

香美・香南地区農業振興連絡協議会 (J A、市、農業振興センター 他)

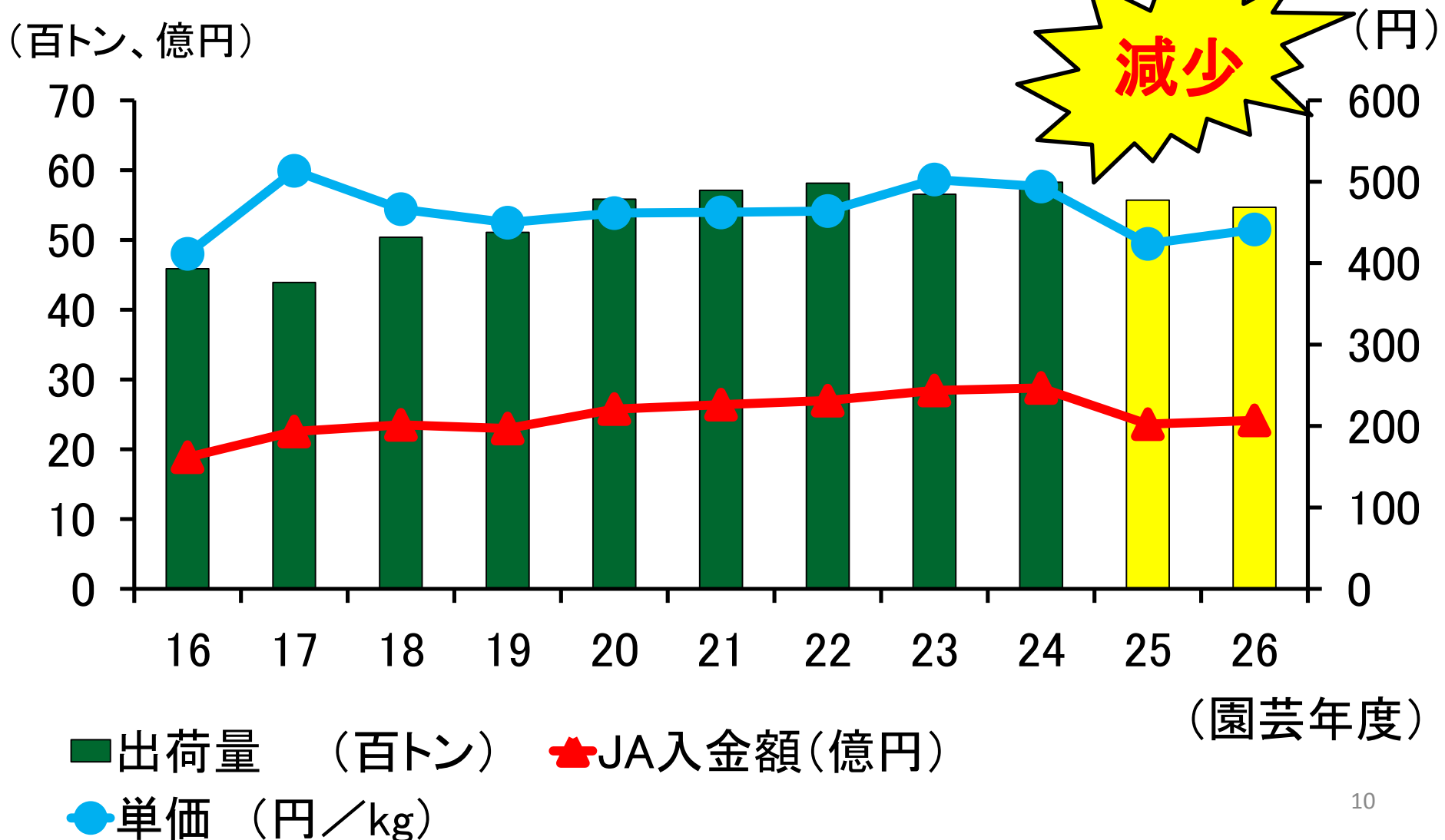
普及活動の内容と結果

1. 産地ビジョンの構築と推進

- ①営農に関する意向調査
- ②産地ビジョンの策定
- ③情報発信

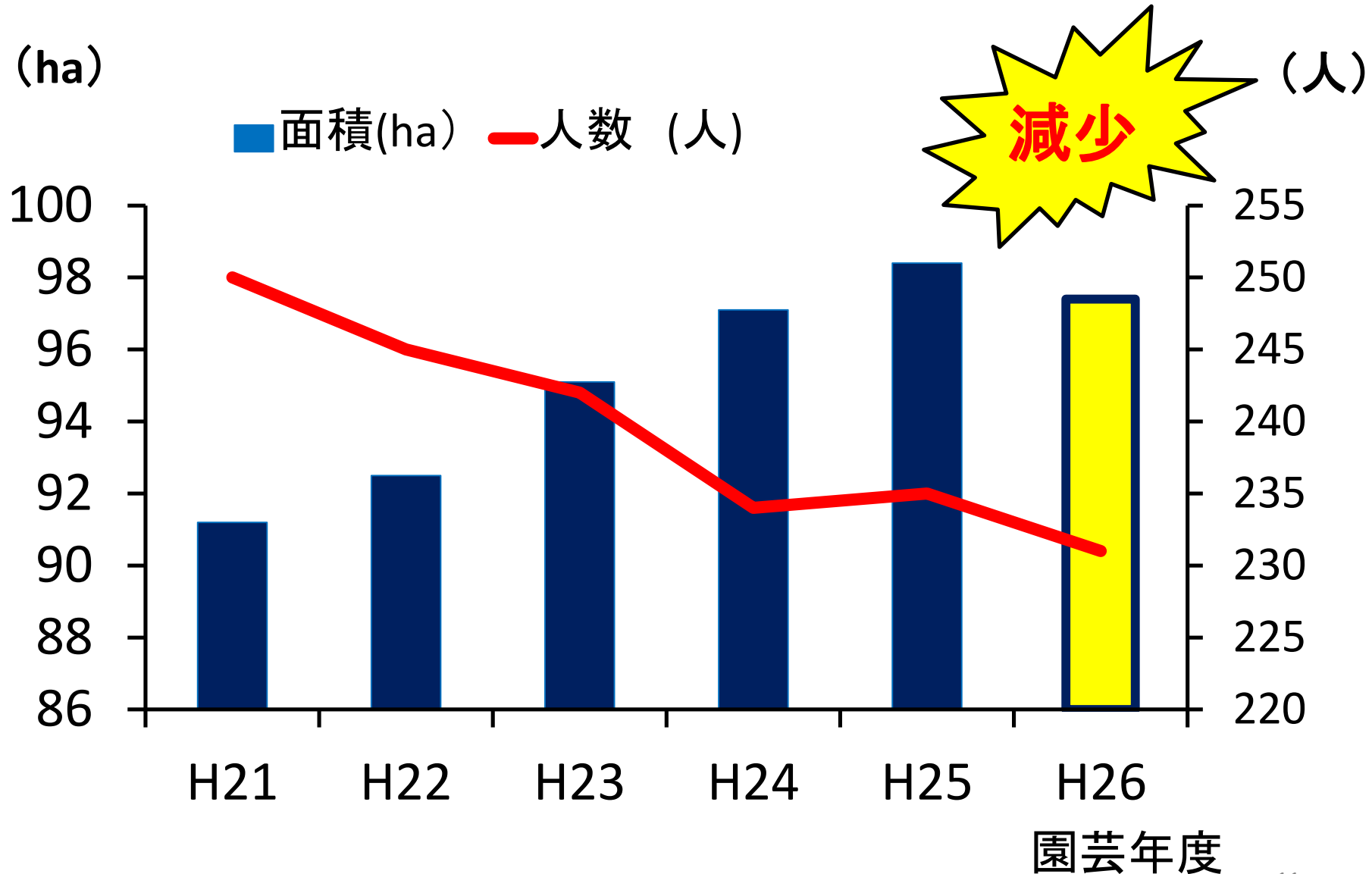
産地ビジョンの策定

JA土佐香美ニラ部会 生産推移



産地ビジョンの策定

JA土佐香美ニラ部会の栽培面積・戸数推移



経営規模に関する意向調査（H26年度）

5年、10年後の 経営規模を調査

経営規模は
拡大？縮小？

いつごろ？

やめたハウス
どうする？

JA土佐香美ニラ部会における 「ニラ栽培に関する意向調査」

JA土佐香美ニラ部会

JA土佐香美ニラ部会は、日本一の生産量を誇るニラ産地として、高齢化や後継者不足から現在の産地規模を維持するため、規模拡大や新規栽培者の確保を進めています。そこで、部会の皆さんの意向を調査させていただきます。産地目標、農地・施設の有効活用、施設整備等に沿った後継者の確保計画を作成したいと考えています。また、この意向をもとに必要に応じて聞き取りに伺いますので、あらかじめご了承くださいよう、お願いします。

氏名 _____ 住所 _____

※ 現状の及び5年後、10年後のニラ栽培について、現状維持、規模拡大、規模縮小（やめるを含む）の適する項目に自筆または番号に○を記入してください。

1 ニラの栽培面積

施設： _____ a 、 露地： _____ a

2 後継者の有無

①いる ②自分が後継者（後継ぎが未成年等） ③いない

3 将来のニラの経営規模

1) 5年後

①現状維持 ②規模拡大 ③規模縮小（やめる含む）

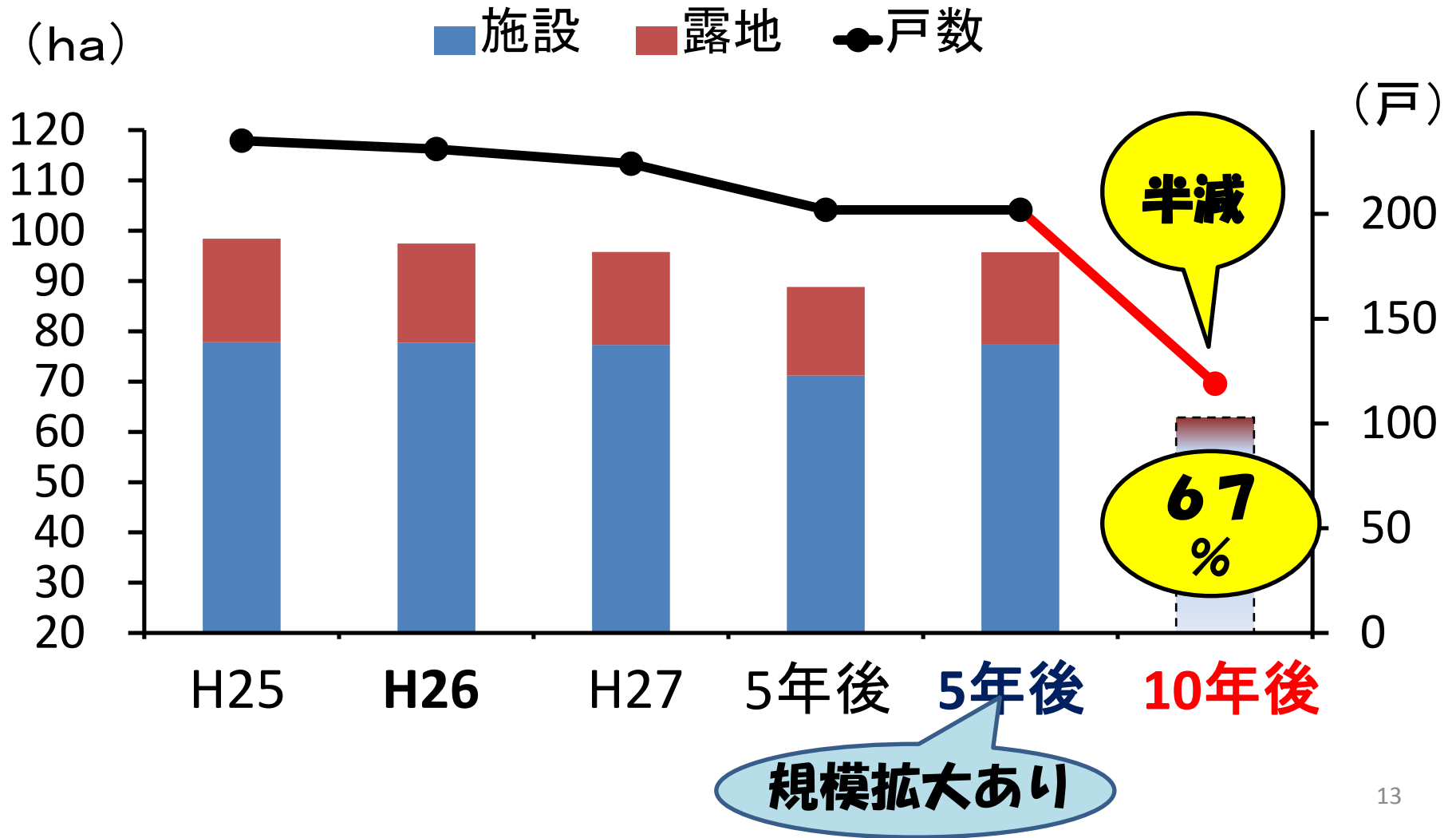
2) 10年後

①現状維持 ②規模拡大 ③規模縮小（やめる含む）

アンケート

産地ビジョンの策定

栽培意向調査に基づく、5年、10年後の栽培戸数・面積予測



JA土佐香美ニラ部会

将来像を
シミュレーション

現 状

(H27園芸年度)

- 戸数:225戸
- 面積:94.2ha
- 出荷量:5,193t
- 販売額:31.7億円

マイナス要因

- ・高齢化
- ・雇用労力の不足
- ・施設の不足

栽培意向調査 (10年後予測)

- 戸数:119戸
- 面積:62.8ha
- 出荷量:3,580t
- 販売額:17.9億円

日本一の
ニラ産地

課題と
必要な
対策は？

産地が維持
できない！

産地ビジョンの策定

産地の維持・発展のために、ビジョンの策定へ誘導

普及活動

- ・ 部会員の意見集約 (地区会)
- ・ 部会に産地ビジョンの策定を働きかけ
- ・ ビジョン実現に向けた課題整理や体制整備を支援



PT代表者会(2016.1.20)

結果

- ・ **産地ビジョン(10年後)**を策定。
- ・ **産地ビジョンPT会**が発足。
テーマ別に3分科会で検討を開始。
- ・ 情報共有のツールとして、「**ニラ通信**」を発刊。

目指すべきニラ産地づくり

①既存農家の経営安定

○品質収量向上対策

高収益技術の普及

○機械化の推進

労働時間の削減

○高齢農家の営農継続対策

地域で高齢生産者を支える仕組みづくり

②規模拡大志向農家の支援

③新規就農者、 品目転換農家の支援

10年後部会目標

(H38園芸年度)

栽培戸数 200戸

栽培面積 110ha

(平均栽培面積：55a)

出荷数量 8,000t

(7,300kg/10a)

市場販売高40億円

販売対策

販売・PR活動⇒販路拡大

加工品の検討⇒6次化産業

機能性成分の検証⇒医療分野での利用

【補助事業等の活用や新たな取り組みの提案】

参考になる！

生の情報が 分かる

ニッポン通信
H28
第1号

注意

◎白斑葉枯病、褐色葉枯病の発生を確認

管内での発生が多くなってきています。現地検討会等の資料を参考に、防除をお願いします。



白 stripe disease



褐色葉枯病



温暖な日が続いたため、ナメクジが発生しています。

【ナメクジ・カタツムリ 登録薬剤】

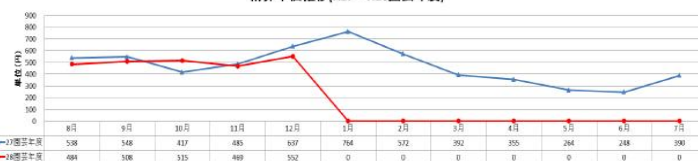
分類・農薬名	使用濃度又は量	使用時期	使用回数	備考
【燐酸第二鉄粒剤】				
スラゴ	1～5g/m ²	発生時	—	ナメバク、類ナメバクの発生あるいは加害を受けた場所

※畝上への使用禁止！！

早期防除に努めましょう！

販売状況(小袋・レギュラー合算)

精算単価推移(H27~H28園芸年度)



イベント情報

第7回 高知のやさい・くだもの・花フェスタ
in 高知ちばさんセンター

1/30、1/31の2日間、県内の生産者が丹精込めて栽培した自慢の園芸品を集めた「展示品評会」や新鮮な農産物などの「即売会」などが行われます。

興味のある方は是非、ちばさんセンターへ！！

今後の活動及び予定

2/3(水)

役員会、PT会

2/11(木)~2/12(金)

消費宣伝（東京）

2/15(月)~2/16(火)

役員市場視察(名古屋、大阪)



にらのニラコさん

助園芸こうち販売促進事業実行委員会
やなせたかし

ニラ通信の発刊と
今後の予定について

今、営業指導員ニラ担当デ
フの宮本が取りまとめたんですが、
ニラ部会が動きまわると現在問題とな
っている被害虫など、1ヵ月か2ヵ月
でタイミリーに情報発信を済ませた
と考えています。

最大の課題であるそぐり手不
足を解消するため、状況に機軸を
入された生産者の状況を紹介する形
のなく、生産者各様や各支所の担
当者も協力していただき、とて
り良い内容にしていきたいと思
えますので、どうかよろしくお願
い致します。



2. 出荷量の増加と 周年安定生産への支援

①新品種・新技術の普及

②作型改善への誘導

出荷量の増加と周年安定生産

新品種や新技術の現地実証を活用した周知と普及

普及活動

- ・ **新品種**の試験
- ・ **電照、炭酸ガス施用**等の環境制御技術の現地実証と**現地検討会、研修会**等での周知



結果

- ・ 「**タフガイ**」等の**品種特性、有望性、栽培上注意点**が判った → **品種転換**
- ・ **電照や炭酸ガス施用効果**を確認
→ 生産者の**関心の高まり**
- ・ **葉先枯れの原因究明と対策**が現在の課題



「タフガイ」実証は現地検討会で生育特性を確認



電照栽培の
現地実証

出荷量の増加と周年安定生産

作型改善への誘導

普及活動

- ・ 作型の**実態**を聞き取り
- ・ 個別**面談**で作型改善案の**提示・誘導**
- ・ **研修会**等で作型改善の有効性を周知



作型改善に向け農家の聞き取り調査

結果

- **作型改善の意識が高まる**
 - ・ 調整作業労力に応じた作型の前進化や露地栽培の導入

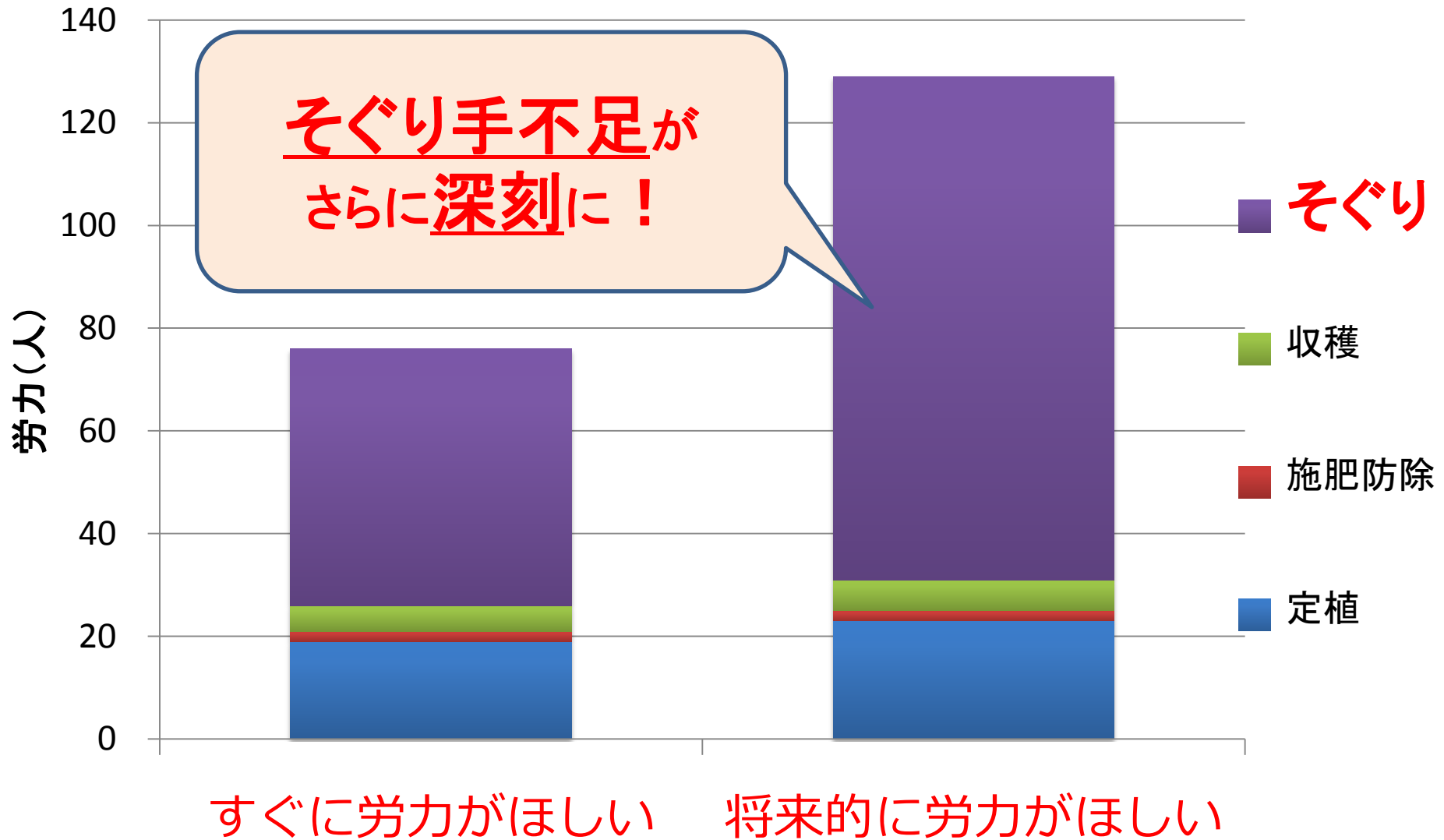
作型改善農家：10戸(H26)

**12～1月出荷量(H24比)
増加：18戸/24戸
(75%)**

3. 省力・低コスト及び 品質向上対策

- ①機械化の検討と導入支援
- ②施肥改善
- ③異物混入対策

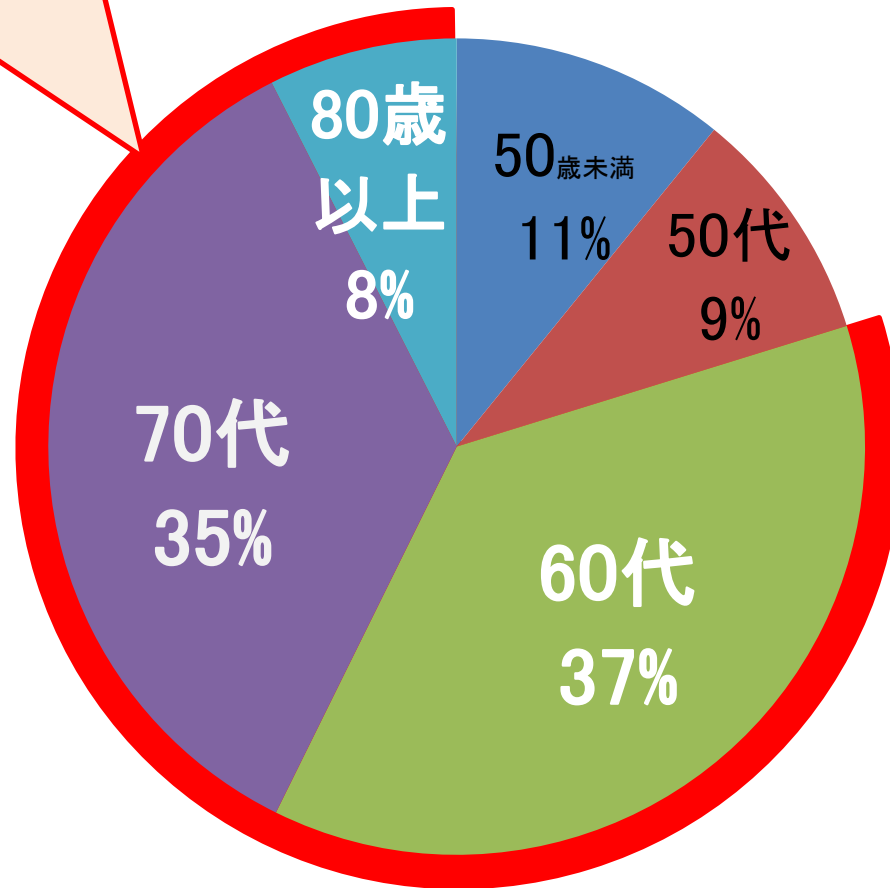
雇用等に関する意向調査結果(H24)



労力確保の意向(ほしい労力)

雇用等に関する意向調査結果(H24)

60歳代以上の割合は**80%**



そぐり雇用の年齢構成

省力・低コスト及び品質向上対策

調整作業機の導入(そぐり作業の省力化対策)

○ J A 出荷場への導入(試算)

- ・ 機械の導入台数、**利用料**
- ・ 出荷量の増減に合わせた**作業員の確保**
- ・ 調整作業で発生する**残渣の処理**方法
→ **困難との判断**

○ 生産者への導入

- ・ **先進地調査**



省力・低コスト及び品質向上対策

事業を活用した調整作業（そぐり）機の導入を検討

- ・ 個別面談
- ・ **そぐり機導入効果をシミュレーション**



規模決定根拠（農業用機械／水圧式ニラ洗浄そぐり機）

農業者名	〇〇〇〇
導入機械	洗浄式ニラそぐり機
作業名	ニラの調製作業
作業時期	周年（28日／月）
導入台数	1台

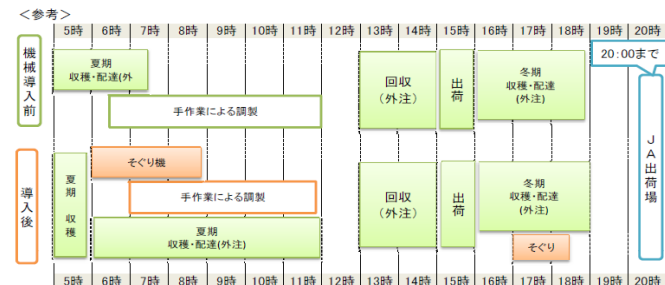
現況の栽培面積（53.0a）のニラ調製作業は、現在、人手による手作業のみ（期間：周年）で対応してきた。規模拡大にあたり、水圧式ニラ洗浄そぐり機の導入による手作業のみの（期間：周年）で対応してきた。規模拡大にあたり、水圧式ニラ洗浄そぐり機の導入による手作業のみの（期間：周年）で対応してきた。規模拡大にあたり、水圧式ニラ洗浄そぐり機の導入による手作業のみの（期間：周年）で対応してきた。

シミュレーションシート

②	
③1日当り	
④1日当り最大出荷量	
⑤1日当り最大出荷量	※別紙作付計画より
⑥製品率（歩留まり）	70% ※別紙現地調査結果より
⑦1日当り最大機械処理必要量	⑤÷⑥=210÷0.7=200kg
⑧機械の処理能力	80kg／時間（ニラの品質によって差が生じるため、最低の数値を使用）※カタログ値より
⑨1日当り最大機械使用時間	⑦÷⑧=300÷80=3.75時間
⑩1日当り機械使用にかかる作業時間	⑨×2人=3.75×2=7.5時間
⑪1人1時間あたりの調製量（手作業）	5kg（開取り・調製後重量、最大出荷量35箱/日×5kg/箱÷7人÷5時間）ニラの品質により異なるため、生産者への開取り
⑫そぐり機使用後の調製手作業効率	160% ※別紙現地調査結果より
⑬そぐり機使用後の1人1時間あたりの調製量（手作業）	⑪×⑫=5×1.60=8kg（調製後重量）
・機械なしの場合の手作業調製時間	⑦÷⑬=210÷8=26.3時間 > 35時間 →× 出荷に間に合わない
⑭そぐり機使用後の手作業調製時間	⑦÷⑬=210÷8=26.3時間
⑮そぐり機使用後の総調製時間（機械分+手作業分）	⑨+⑭=7.5+26.3=33.8時間 < 35時間 →○ 出荷に間に合う

（結果）
以上により、出荷量が最大時のそぐり機の使用時間は3.75時間となり、その後の手作業による調製時間を含めても、出荷には間に合うため、そぐり機を1台導入することとする。

＜添付資料＞
・導入機械のカタログ、製品率、作業効率の根拠資料



省力・低コスト及び品質向上対策

調整作業機による省力化の検討と導入・拡大

普及活動

- ①そぐり機の活用方法
・能力等を調査
- ②機器導入希望者と個別
面談し、導入効果シミ
ュレーションを提示
- ③産地ビジョンP T会で
導入方針を協議(H27)

結 果

- ①そぐり機の導入効果を把握
- ②そぐり機の導入が進む
合計13台(H27:6台)
- ③事業を活用した導入を加速す
ることで合意

調整作業機的能力調査(H26)



省力・低コスト及び品質向上対策

施肥改善による省力・低コスト化への誘導

普及活動

①低コスト省力化の検討

緩効性肥料の現地実証

②情報の共有化

現地検討会や研修会等での周知



実証ほを活用した改善へ
(H25現地検討会)

結果

①緩効性肥料の利用は低コストで肥効が安定し、生育も良好であることを実証

(基肥費24%削減)

②緩効性肥料の効果が理解され、導入農家が増加 (0%→約50%)

省力・低コスト及び品質向上対策

異物混入対策の検討と意識啓発

普及活動

- 優良事例紹介及び注意喚起ポスターの作成・配布
- G A P 点検シートによる点検と検証の実施
- 目慣らし会等で作業環境の改善に向けた注意点を啓発

結果

- 目慣らし会に調整作業者も参加
- 異物混入対策に対する意識の高まり



目慣らし会

JAとさかみニラ部会
調整作業場の衛生管理

異物混入0をめざして

照明を明るくして手元が見えやすいように

箱詰め、袋詰め時には再確認

専用の帽子を被り、清潔な服装で髪の毛が入らないように

整理・整頓。清掃

× 作業台の上には余分なものを置かない

無くなったものはないですか？

段ボールは当日分だけをつくる

土に直接触れない場所で保管

× ペットを入れない
× 作業場で飲食や喫煙はしない

JAとさかみニラ部会
中央農産部会センター

いらのニラちゃん

市農業こうちん部会農産部会実行委員会
やなせたかし

啓発ポスター

4. 新規就農者の

確保・育成

①若手農家の資質向上

②バックアップ体制づくり

新規就農者の確保・育成

バックアップ体制の構築と資質向上支援

普及活動

- ①役員会等での「産地課題の検討実施」へ働きかけ(H25)
- ②全戸で5年、10年後の生産意向調査を実施(H26)
- ③新規就農者を対象に「**グリーンカレッジ**」を立ち上げ、講習会や現地研修会を開催(H26・27)
- ④新規就農者**バックアップ体制**を役員会等で協議、**指導農業士**育成支援

結 果

- ①部会での「**新規就農者の早期自立を支援するバックアップ体制の構築**」を合意(H25)
- ②生産者意向調査に基づきハウス流動化リストによる情報提供体制ができた
- ③グリーンカレッジにより、**基本技術の習得**や**仲間づくり**が進んだ
- ④各地区での体制強化のため、新たに**指導農業士**2名を推薦し認定された(H24 : 5名→H27 : 7名)



グリーンカレッジで
現地研修(H25)

5. 担い手の経営

安定への支援

①経営分析

②指導・啓発

担い手の経営安定への支援

経営データの分析による経営管理の改善

普及活動

- ・ 経営データを基に
経営分析を行った(延べ73戸)
- ・ 分析結果を各生産者や経営研修会で報告し、見直しに向け
指導・啓発



経営研修会で分析結果報告(H25)

結果

- ・ **高収量・高所得経営の特徴や低所得経営の問題点を明らかにできた**
- ・ 分析結果に基づく指導・啓発で、**定植時期の前進化等改善が進んだ**
- ・ 経営目標達成農家が
増加(28%→58%)
- ・ **経営モデル・指標を作成(2事例)**

普及事項と目標達成度

N O	普及課題事項	評価項目	実施前	目 標	実 績
1	産地ビジョン構築と推進	産地目標	単年度	中長期ビジョン策定	中長期ビジョン策定 (100%)
2	出荷量の増加と周年安定生産への支援	12～1月出荷量前年比増農家割合	－	16戸/24戸	18戸/24戸 (100%)
3	省力、低コスト及び品質向上対策	8～9月秀品率前年比増農家割合	－	16戸/24戸	16戸/24戸 (100%)
4	新規就農者の確保・育成	バックアップ体制 指導農業士数 モデル数 グリーンカレッジ実施・参加率	体制がない 5名 1名 未実施 －	体制の決定と実施・検証 6名 1事例 実施 60%	構築された (100%) 7名 (100%) 1事例 (100%) 実施 (100%) 25% (42%)
5	担い手の経営安定への支援	経営目標達成農家数割合	7戸/25戸 (28%)	10戸/24戸 (41%)	14戸/24戸 (58%)

普及活動実績の周知

県域及び管内

- ・品目別現地検討会
- ・生産者交流会
- ・実証成果発表会
- ・二ヲ担当者会
- ・普及推進協議会
- ・香美・香南地区農業振興連絡協議会
- ・香美市、香南市農業関係連絡会

二ヲ部会 (普及課題対象)

- ・三役会、役員会
- ・研修会、現地検討会
- ・目慣らし会
- ・個別現地指導
- ・二ヲ通信・啓発資料の配布

常に迅速かつ
タイムリーな
情報提供・共有



現地検討会で最新情報の
提供と共有(H25)

残された課題と今後の普及活動

産地ビジョンに基づく産地の再構築

課 題

1. 既存農家の経営安定

- 1) 省力、効率化技術の検討・普及
- 2) 調整作業機新規導入農家の出荷量アップ

2. 規模拡大志向農家の支援

- 1) 事業導入による規模拡大
- 2) 法人志向農家の確保・育成

3. 新規就農者、 品目転換農家の支援

- 1) 新規就農者の受入体制づくり
- 2) 新規就農者等の定着支援



目指す姿

- ・ **生産量が拡大**
→ 調製作業の機械化や雇用確保の仕組みの構築
- ・ **周年安定出荷**
→ 作型改善で出荷ピークの分散
- ・ **担い手を確保**
→ 担い手育成の仕組み作り
- ・ **所得の確保**
→ 実績に基づく経営目標の設定と達成